



# 長橋っ子は今年もがんばります

1月9日(火)より2024年の学校生活がスタートしました。これから3月末までの学校生活は本当に短い期間です。その間に卒業証書授与式や修了式が予定されており、6年生は小学校を巣立っていきますし、2年生から5年生はそれぞれ進級します。まさにそれぞれの学年の締めくくりを行う大切な時期ですが、全く心配していません。そう思うのは児童のみなさん全校朝礼での態度を見たからです。「元気いっぱい過ごしてくれるだろう。」と思わせてくれた素晴らしい態度でした。今後の成長を楽しみにしています。

## <令和6年能登半島地震で亡くなられた方々に深い哀悼の意を>

1月1日に発生した今回の地震では、私たちの住んでいる嶺北地方でも激しい揺れで恐怖を感じましたが、それでも震度5弱です。能登の方々が味わった震度7の揺れとその後の絶望は私たちには想像できないものです。その後、報道等により映し出された被害の状況を見て、自然の力の凄さを再認識しております。そして、被災された方々の切実なコメントに涙が出ました。一日も早い復興を願っています。

また、地震当日は北陸地方の沿岸には津波警報が出され長橋地区も例外ではありませんでしたが、緊急放送とともに命を守るために一早く避難をしていただけたことが心強かったです。さて、報道ではたびたび「断層」ということばが聞かれます。断層がズレたことによって引き起こされたのが今回の地震だったのです。実は福井県にもたくさんの断層があるのです。



今年(令和6年)は1948年6月28日の福井地震から75年目でした。福井県の地震を長く研究している福井高専の岡本拓夫教授(地震学)は次のようにコメントをなさっています。

「福井は地震のエネルギーがたまりやすい場所。大きな地震がいつ起きてもおかしくない状態である。」福井県の真下には地震エネルギーとなるひずみが集中している「新潟-神戸ひずみ集中帯」があり、1995年の阪神淡路大震災を起こした兵庫県南部地震、2004年の中越地震、2007年の中越沖地震、2018年の大阪北部地震などがこの帯域で起こっていて、福井県内では2020年9月に坂井市で震度5

弱を観測した地震も同様です。当時、春江中学校勤務だった私はパソコン室で授業中にこの地震に遭遇し、突如足元から突き上げるような衝撃を受けた瞬間激しい横揺れを生徒たちと共に体験しました。それ以降、ちょっとした揺れにも非常に敏感になり、現在に至っています。

「地震は必ず起きるもの」と普段から意識しながら、その時冷静に行動したいものです。加えて災害に対しての知識をいろいろな機会を設けて身に付けていきましょう。

「3・4年社会科校外学習」 1月16日 福井県庁と福井県警察本部を訪問しました。実際の県議会が行われる議場で行政職員や議員の席に座り、説明を聞きました。また、県警本部では白バイに乗車体験を行いました。



「グローブの贈りもの-野球しようぜ!-」 1月19日 大谷翔平選手から寄付されたグローブが長橋小学校にもやってきました。これからボロボロになるまで使い込みましょう。道具は使ってなんぼです。



「校内カルタ大会」 1月19日 休み時間等を使って練習してきた百人一首の大会が行われました。全員で2チームに分かれて総当たり戦でした。どの児童も一生懸命でしたね。



「世界の音楽に親しもう」 1月25日 森 眞一郎先生方をお招きして出前授業を行いました。子供たちも一緒に演奏したり、いろいろな楽器に触れたり楽しい時間を過ごしました。「また来てほしい」という声が多数ありました。

「スピーチ集会」 1月26日 大きな声でハキハキと意見を発表!

